

大分市の都市軸形成に関する考察(その1)

~世界の都市軸から~

正会員 幸健太郎*1
同 片山義広*1
同 佐藤誠治*2
同 小林祐司*3
同 姫野由香*4

大分駅南地区 都市軸 模式図
数量化 類 クラスタ分析

1 背景と目的

現在、大分駅南地区において、大分駅南土地区画整理事業が行われており、この再開発事業における大分駅南土地区では、新たに都市環境の整備と情報機能、交通結節機能といった都市機能の集積が期待されると同時に、地域性を重視した土地利用の実施が求められる。このことより、大分駅南土地区画整理事業地区を中心に、個々の事業に関する現況の把握と今後の地域内街区における諸機能の立地、及び建築規模のシミュレーションを行い、大分駅南地区の課題と可能性を調査・将来像の提案を行う事を目的とする。

2 日本国内外の都市軸事例

GoogleEarth と地図による確認を行い、主要な都市軸であると考えられる大通り等を国内外で 31 事例選定し、各々の特徴・シンボルロードへの参考点の考察といった調査を行う。その際、住居・オフィス等の建築物や並木・歩道等の構成要素を模式化し、模式図として表現することで、上空からの都市軸の様子を認識しやすくする。加えて、都市軸沿いの建築物の高さを明確にするため、模式断面図を作成し、各都市軸の分析を行う。

2-1 国外の都市軸事例

国外の都市軸を 28 事例選定し、一例として、パリのシャンゼリゼ通りを挙げる。

図 1 は、上空から見た詳細模式図とその構成要素で、図 2 は、詳細模式図を簡略化したものである。図 3 は模式図内の断面 AB、CD の断面図とその構成要素である。

詳細模式図より、複数の構成要素を含んでいることが確認でき、この都市軸は沿道の変化に富んでいることが判断できる。さらに幅広い歩道が設けられ、歩行者が楽しみを持って利用できるのではないだろうか。このシャンゼリゼ通りを模範としている都市軸が存在する。他 27 事例についても同様にまとめた。

2-2 国内の都市軸事例

国内の都市軸を 3 事例選定し、一例として、札幌市の

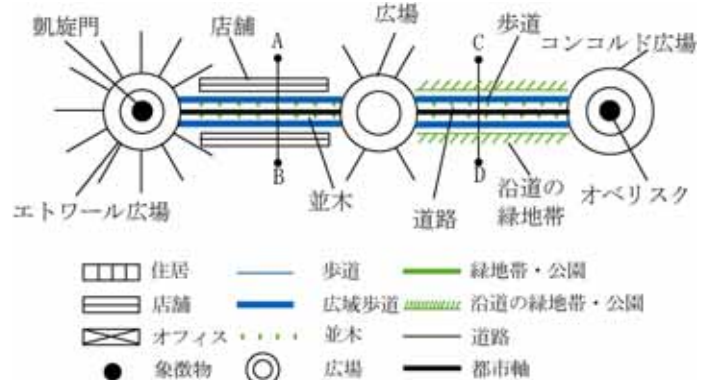


図 1 詳細模式図及び構成要素

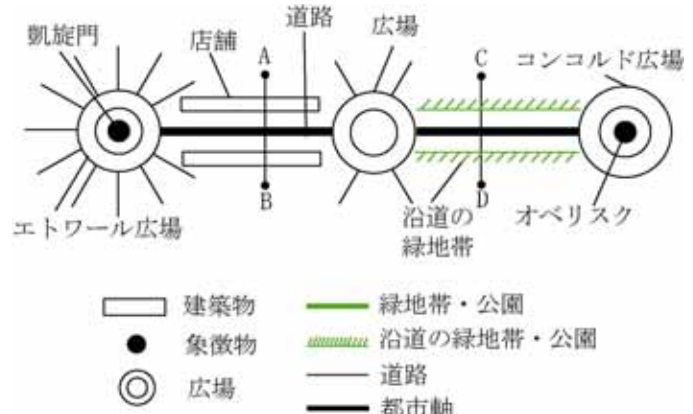


図 2 簡略模式図及び構成要素

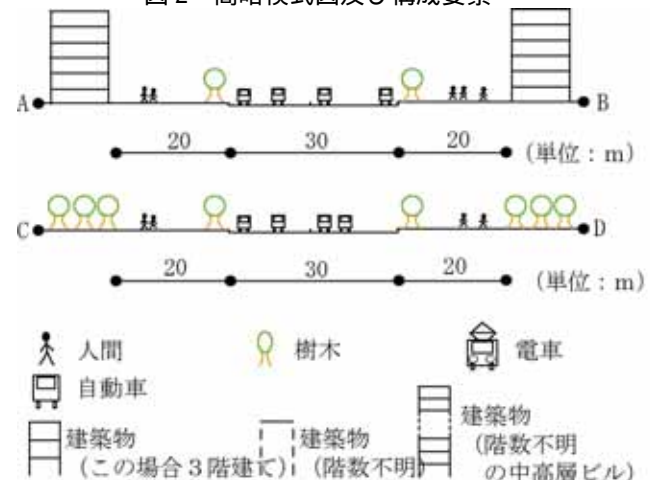


図 3 断面図及び構成要素

大通公園を挙げる。図4、図5に模式図、図6に断面図を示す。火防線として、明治4年に設けられ、その後札幌の街づくりの中心となっている。全長は、東西に1.6kmである。

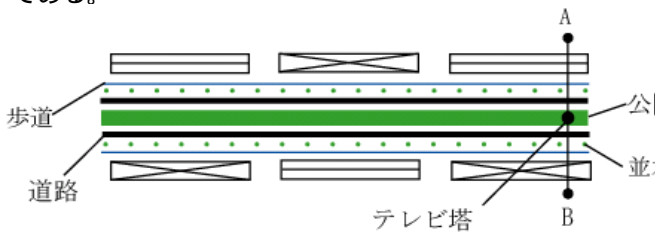


図4 詳細模式図

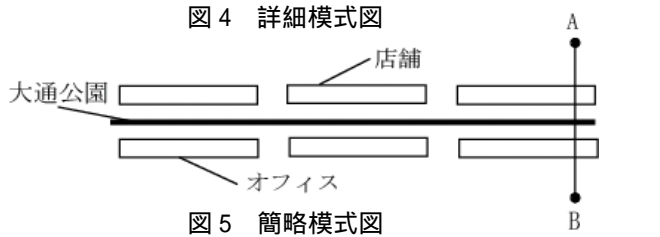


図5 簡略模式図

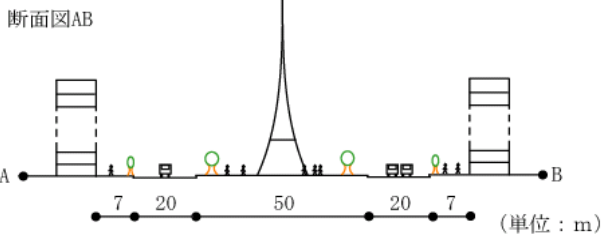


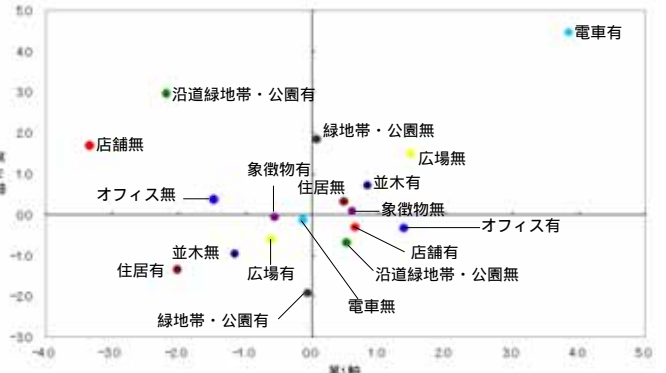
図6 断面図

中央帯に公園を配し、両脇に道路・並木が広がる形態であると判断できる。札幌市のシンボルとなる交通動脈である。オフィスや店舗を数多く含む中高層ビルが立ち並ぶ中での憩いの場となるである上、形態も大分駅南地区のシンボルロードと類似している。ここでも、他2事例について同様にまとめた。

2-3 都市軸事例の類型化

2-1 国外の都市軸事例、2-2 国内の都市軸事例で触れた31の都市軸事例の類型化を図る。数量化 類を用いて「並木」などの10要素のカテゴリデータ(図7)から各都市軸のサンプルスコアを算出し、これをもとにクラスター分析を用いて類型化を行う。横軸(第1軸)を「居住空間に特化し、沿道の緑地帯・公園が多い傾向」、縦軸(第2軸)を「商業空間に特化し、緑地帯・公園が多い傾向」と解釈し、各軸とも大きい数値ほどその傾向は弱くなることを示す。その結果、大きく4分類(図8)に分けることができた。各分類の特徴については、図8より、クラスター1は、周辺に建築物が少なく、沿道に緑地帯・公園が多い。クラスター2は、商業空間に特化しており、緑地

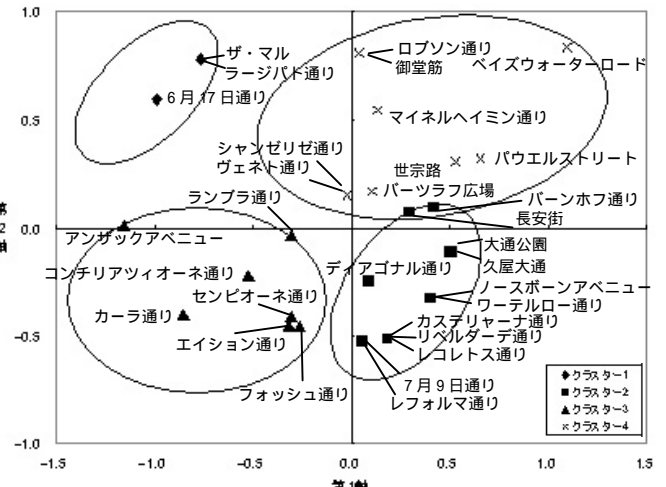
商業空間に特化、緑地帯・公園が多い傾向



居住空間に特化、沿道の緑地帯・公園が多い傾向

図7 カテゴリスコアプロット図

商業空間に特化、緑地帯・公園が多い傾向



居住空間に特化、沿道の緑地帯・公園が多い傾向

図8 クラスター分析

帯・公園が比較的多い。クラスター3は、居住空間、商業空間に関係なく、緑地帯・公園が都市軸内及び沿道に多いことを示す傾向にある。クラスター4は、ばらつきを示すものの、居住空間、商業空間に関係なく、緑地帯・公園が都市軸内及び沿道に多いといえる。

3 総括

各都市軸の持つ並木、店舗といった構成要素をもとに数量化 類、クラスター分析を行い、国内外31都市軸の類型化を図った結果、大きく4分類でき、それぞれの特徴を見出すことができた。

いずれの都市軸もほぼ都市の中心地に位置し、大分駅南地区も同様の位置づけとなる。特に、都市軸の中央帯に緑地帯または公園を配した事例からは、シンボルロードと類似した形態であることが分かった。今後は、沿道と都市の活力という観点からの考察も必要であると考えられる。

*1 大分大学大学院工学研究科博士前期課程

*2 大分大学副学長 工博

*3 大分大学工学部福祉環境工学科建築コース 講師・工博

*4 大分大学工学部福祉環境工学科建築コース 助手・工博

*1 Graduate Student, Master's Course, Graduate School of Eng., Oita Univ.

*2 Vice President, Oita Univ., Dr. Eng

*3 Assistant Professor, Dept. of Architecture, Faculty of Eng., Oita Univ., Dr. Eng

*4 Research Associate, Dept. of Architecture, Faculty of Eng., Oita Univ., Dr. Eng